





故 小野梓先生 肖像

故 小野梓先生 遺墨

宿毛に帰りし後、熟思ふより畢竟斯く審聽の束縛を受くるに畢竟帶刀の身にて士官の列不在ルハこそ些る所偏軍東京にて左近へなづかく今ドリ士林と争し平人ヒツジンと為しの身と自由スルすこそ今日の上策なりと或る日其由を萱塙家兄弟等不詮し平人の頭カミを出すことを爲すに至り然るに伊賀イハ之を用き面マスクけをもつて擗ハグなく他家へ養子ヨウズふ往く躰コトコトて平人ヒツジンとありたりき。この平人ヒツジンが事モノヲ孰シテ知シムて火大抵オカルトの短氣クイクイをもと認め今時ハ平人ヒツジンでさへ士林シリンよ兩ツバりたゞ思スルハ脇アキラの一本一本も差セ一毫思スルふ世エダの中なる小慾コト欲。帶刀タケヅチを抜ハサフき捨て平人ヒツジンとする。よし誠志シメシテ得シテ遣シじゆう。由ヨリさゝやきな小ぶ余ハサシ見シる所モノあきらめハシマい。なしやつ心ハシマせば笑ハシマかハシマと豊ツバく乞ハシマひ遂ハシマユ平人ヒツジンとハシマす。

故 小野梓先生ノ遺稿中自家ノ経歴ヲ手記セル一冊子アリ
右ニ掲ゲシハ其一節ニシテ手跡ノ儘シテ寫眞石版ニ附セシ
モノナリ

施政要義

我党所尚ノ主義ハ方サニ宣言ノ如シ然レドモ
王室ノ尊榮ヲ冀ヒ民人ノ幸福ヲ謀ルハ天下ノ
人皆十共ニ同シキ所ナリ帝國臣民ノ中乱賊ニ
アラカルヨリハ誰レカ王室ノ尊榮ヲ忘レ民人
ノ幸福ヲ蔑ニスハモアランヤ唯如何セハ能
ク王室ノ尊榮ヲ増スニ足リ能ク民人ノ幸福ヲ
進ムルニ足ルニ至テ彼此其見解ヲ異ニス是レ所謂
施政ノ要義ヲ異ニスルモノニシテ政黨ノ争
全シ此一に存ス故ニ徒テニ开當ノ主義ヲ宣

言スルニ止テ未タ施政ノ要義ヲ言明セサレハ
天下ノ興望必ニス其擇所シ失十ハニ是ヲ以
テ我党ハ明ニ我施政ノ要義ヲ言明シ興論ノ
背ヲトスルアラントス

一國会開設ノ期ハ聖天子既ニ重勅し
リ其組織、如キモ亦ニ時ニ又ニテ正正ノ憲
章ヲ立テカセ給フヲ知ル故ニ我党ハ今國会
ノ組織ニ就テ党議ノ所在ヲ観カス一一聖天
子ノ明勅ヲ奉侍ス然レトモ立憲政体ノ實益
ノ政黨ヲ以テ内閣ヲ組成シ國会信用、如何

ニ由テ之ニ進退シ興望ア副ハセ給フニ在リ
故ニ我党ハ八年ノ後于國会ヲ開カセ給フニ
当リ必ニス政黨為政ノ良制ヲ定メ永ク帝國
安寧ヲ謀ラセ給ハシユトヲ望ム
一帝室ノ威望、相家武門ノ攘奪ニ遇ヒ其夷陵
ヲ極メ維新ノ中興ニ及シテ稍ト之ヲ復カセ
給フト僕モ積弊ノ在ル所未タ我党ヲ満足セ
シムルニ足ラス為メニ帝國臣民、至情ヲ飽
カシムルニ足ラサルモノ多フレ是以テ我
・党ハ大皇有ノ財産ヲ聚メ帝室、威望ヲ維カセ

給ニ十全ナラニコトヲ期入

一紙幣ノ制ハ維新ノ創業ヲ助ケ其利サナヤラ
カリシト矣モ到底之ヲ久レキニ行フヘカラ
サルハ理財ノ要ニ於テ筆ヲヘカラサル所十
リ世ニ產ニサル者間々勸商業振ハサハラ歡
歎シ或ハ直輸出謀リ或ハ勸業勸商ヲ言フ
ト度ニ抑ニ是ニ技華ノ見カタ唯フニ商工ノ
衰頹スルハ物價、安着セサルニ根ニ物價ノ
安着已サルハ紙幣其制リ果ナリ故ニ我党
ハ断然紙幣ノ制ヲ廢止シテ金貨ノ制ヲ實行

セシコトヲ期入
一地租ノ他税ニ比レテ軽カテサルハ政府ノ歳
入十分ノ九ハ地租ナルヲ以テ知ルヘレ世ノ
連セサル昔時農家ノ敝カニ富豊ナルヲ見
勤メエスレハ此時之ヲ増加セント欲ニル者
アリ然レトモ是レ大ニ帝國ノ不利スルモノ
ソニシテ土地ノ改良荒野ノ開拓ヲ為サムル
ハ職ドシテ地租ノ輕カラル知ル故ニ我
党ハ明治十八年地租改正期ニ及シテ之ヲ

増々ハルハ更ラナリ漸ク減殺シテ百人アノ一ト迄スニ至ラニコトヲ冀望入
一外交ノ事ハ國權、保ル所ナレテ之ヲ苟且ニ
貯ニヘカラサルハ世論、既ニ知ル所ナリ然
ルニ今外交ヲ說クモノ往々外人、欲心ヲ得
テ我目的ヲ達セント歟ハ惟ニ是レ説波シ
スナリ彼レ必テ入我ヲ侮辱スルニゾハシ故
ニ我党ハ帝國ノ威儀ヲ養ニ訂約諸國ニ就テ
其最ニ親ムヘキ者ヲ擇ヒ我冀望ヲ實行スル
ノ途ヲ為サンコトヲ期ス

一陸軍ノ強盛ハ帝國治安、為メ我党、望ム所
ナリ然レトモ今テハ弱ク集コレハ強ヨハ兵
ノ常勢ナリ况ニヤ我邦、如キ地界狭小ニレ
テ而モ海運ノ至便ナル邦土ニ在テハ又ヲ某
ミノ所ニ總合シテ全國ヲ鎮撫スルヨリ成ニ
其宜シヨラ得タリ旦ツ兵營ヲ數所ニ分置セ
ハ費用ノ自カラ多キハ事實ノ疑フヘカラ
カラ合セ併ニ其費用ヲ移シテ之ヲ兵器、製
作砲臺、雍造等ニ用サシニトヨ期ス

一徴兵ハ世論ノ在ル所ナリト旨モ國民皆十軍
ルハ又々已ムラ得サルモノナリ然レトモ
健兵ノ役ニ丁ルモ立身ノ好機ヲ失スルノ
弊アルハ我党、能ク知ル所ナリ故其服役ノ
期ノ短縮シ尠メ立身ノ好機ヲ失ハシメ
ナルハ又我党ノ甚々望ム所ナリ今我党ヲ以
テ之ヲ觀レハ小学校教育ノ制ラ調停レ揮銃ノ
一科ヲ加ヘシメ天下、兒童ヲシテ豫メ兵々
ハノ備ヲ為サシメハ異日徴兵、役ニ丁ルニ
及シテ歩操自カラ習練レ易ク隨テ服役ノ期

ヲ短縮ヘルヲ得ルヲ知ル

一海軍ハ帝國ノ位置商業、関原ニ於テ最モ擴
張セシニトヲ改スル所ナリ然レトモ平時所
有ノ兵艦ヲ浮水スルハ徒テニ費用ヲ消費シ
テ邦土ニ益ガシ故ニ我党ハ平時兵艦、一部
ヲ残レテ某ニ鎮守ノ用ニ充テ余外ハ便宜ノ
地ニ封園シラ之ヲ浮水セス其士官水夫ノ如
キモ之ヲ鮮隊シテ民間航海ノ營業ヲ得セレ
メ其費用ヲ移シテ以テ兵艦武器、充實ニ充
テニヨトヲ期ス

一我邦陸軍ノ徵兵ヲ行フニ久シ然レトモ未
タ海軍ノ徵兵アラス惟フニ今ノ時ニ當テ海
軍ノ擴張最モ意ラ用ヰサルヘカラテス故ニ我
党ハ沿海ノ町村ニ就テ陸軍ノ徵兵ヲ停メ之
ニ更フハニ海軍ノ徵兵ヲ以テセンコトヲ期
ヘ

一我邦學問ノ獨立セサルヤ久シ而レテ其然ル
所以、モノハ教育ノ基礎ヰ立タサルニ由
ハ惟フニ學問ノ獨立ハ一國獨立ノ根本ナリ
故ニ我党ハ文部ノ全カヨ竭クシテ帝國ノ大

学ニ用ヰ以テ学士ラシテ名譽ト寔益トヲ併
有ナルヲ得セシメ終生身ヲ學科ニ委シ所謂
ル日本帝國ノ學問ナルモノヲ興起スルヲ得
センマニンコトヲ期ス

一政治ト宗教トハ非一ニシテ相干ニ要セラ
ルハ嘆論ノ既ニ定マル所ナリ然レトモ世ノ
達ニサル者勤ニモスレハ其必一ニ冀ニ政治
ヲ以テ宗教ニ干涉セントス是レ景ヨリ非ナ
リ故ニ我党ハ嘆論ノ所定ニ従ニ政治ヲ以テ
一切宗教ニ干涉セサルヲ期ス

一道路、便運輸、利ハ一國富実ノ一大基礎
タルハ人々、能ク知ルナリ然ルニ世ノ產
セサハ者勤シモスレハ授産勵業ノ事ヲ說テ
道路運輸ノ事ニ及ヘバ会々之ヲ言フモノア
ルモ其形ヲ収メテ其實リツキケス徒ラニ況
ニ類スルノミ故ニ我党ハ工部ノ全力ヲ竭ク
レテ咸ク之ヲ道路瀧川ノ改良ニ用ヰシコト
ヲ期エ

一裁判、延滞ト訴訟、不便ナルハ民人、休戚
ニ閑スル所多フレ而シテ其弊大ヤ多クハ法廷

ノ配置周密十ラスレテ法官ノ獨立未々全カ
テサルニ根入故ニ我党ハ他ノ未急ノ政費ヲ
節約シテ之ヲ司法ノ費用ニ供シ以テ法廷ヲ
布置シ併ニ法官、独立ヲ全フル、法ヲ設
ケンユトヲ期入

以上ハ我党施政ノ要義ナリ惟ニ朝野ノ人如何
カ我党ノ見ル其与エル昔ハ未リテ我党ト一致
セヨ其與ミセサル者ハ去テ我党ノ為ニ所ヲ排
除セヨ我党ハ既憲帝國ノ為メニ我要義ヲ實行
スル、機ヲ求メ敢テ自カラ逸セサヘ也